

## 富山県子育て支援・少子化対策県民会議 議事録

- 1 日 時 平成 27 年 2 月 20 日（金） 15:30～17:00
- 2 場 所 高志会館 薫風
- 3 議 題 基本計画の答申案について 等

### 4 委員発言要旨

#### < A 委員 >

・第 3 子以上の保育料の軽減について、所得制限を設けられた経緯や、富山市との関係について教えて欲しい。

#### →< 石井知事 >

所得制限を設けた経緯については、子どもを増やすにあたっての課題を聞くと、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」という答えが 4 分の 3 くらいであり、やる以上は継続的にやらないといけないので、子育てにお金がかかりすぎていることが課題だというご家庭を支援する必要がある。

#### < 厚生部長 >

保育料軽減制度は平成 6 年から実施しており、平成 8 年に富山市が中核市になった際に、相当の財源措置がされたので、協議の上、保育料軽減については、中核市である富山市が制度を持つとされた。

その後も、県の制度の拡充に合わせて、富山市でも制度の拡充をされている。このような経緯でこれまで役割分担をしながらやってきたということである。

#### < B 委員 >

- ・様々な細かな施策を子育て支援のためにしていただいて大変ありがたい。
- ・子育て世代は、仕事も子育ても両立しないといけない。中小企業に勤めていらっしゃる方も多いので、30 人規模の中小企業に対しても両立支援をしていただけるのは大変ありがたい。
- ・たくさんの施策をやっていただくことで、勇気を持って子どもを育てたり、また子どもを産んだりしていきたいなとそういうような気運を高めていきたいと思う。
- ・県の方でも、たくさんの施策をしていることを PR して欲しい。

#### < C 委員 >

- ・第3子以上保育料無料化は、本来国がしないといけない。
- ・本当に第3子以上ということを考えるのであれば、予算の関係があるが、所得制限はできるだけつけないほうが良いと思う。
- ・色んな施策が出ているが、計画が絵に描いた餅にならないように実効性のある形にしていきたい。
- ・産む場所が無くなってきているということも現状なので、産婦人科医の確保に関して10年計画くらいでやっていく必要がある。

#### < D 委員 >

- ・3人の子どもを持ってらっしゃるお母さんは、幸せとか、子どもが3人いて嬉しいとか、寝顔を見たら3人で良かったとか、そういう感想を言われる。ぜひ、実際にお子さんをもってらっしゃる人から、これから子育てしようとしている人たちに子どもがいたらこんなに幸せで良いこともあるよということを、PRしてもらいたいと思う。
- ・自分の子どもを持って初めて赤ちゃんに触れることも多くなっているため、命の授業などで、子どもを育てるという自分のライフプランを小さいときから少しずつ考えていく場があればいいと思う。

#### < E 委員 >

- ・ひとり親家庭に対して、支援体制をもっと強化していただきたい。

#### < F 委員 >

- ・全体的な立ち位置としては、危機感を煽るというスタンスがいいと思う。その改善、解決策を示すのが県の使命だと思う。
- ・例えばパパのおんぶは当たり前というようなキャンペーンをしたらどうか。ただチラシを配るだけではなく、例えば、高齢者には市報や町内回覧板、若者にはネット、高校生には教育の場、職場では朝礼やミーティングなどを上手に活用すれば、最小限の予算で動くのではないかな。
- ・結婚、出産は早めがいいというライフプランに対する教育について、対象者と年齢に適した教育が必要。

#### < G 委員 >

- ・富山県は全国でも三世同居率がとても高いが、祖父母に子どもを見てもらえる環境が富山県の女性の社会進出を後押ししていたのではないかなと思う。

・働きながら子どもを産む良さを伝えていかなければならない。例えばもっとテレビでも子育ての良さとかふれあいの大切さをもうちょっと PR をしていただけたらと思う。

・学校と老人ホームなどの複合型施設では、年齢の違った人が一緒に触れ合う時間を持つことにより、核家族では見られない部分を見ることができるので、そのような施設の設置も検討して欲しい。

・非正規の若者について、勤務時間の改善をしてほしい。

#### < H委員 >

・保育所は 18 時～19 時まで預かってもらえるが、小学校へ入ってすぐは 13 時すぎ、あるいは今だったら 15 時過ぎにはもう帰ってしまう。そのギャップをどうするか非常に保護者が心配している。

#### < I 委員 >

・病児保育もちろん大事だが、それと同時に子どもが病気の時くらいは仕事を休むことができる職場環境や社会環境を整えて欲しい。

・ファミリーサポートセンターは、地域とお母さんや子どもが密接につながるいい制度だと思うが、利用料が高い。利用料の軽減や助成があればいいと思う。

・幸せな出産が幸せな育児、そして子どもをより多く育てるという希望につながっていくと思うので、産科の先生や産科の医療の現場を増やしたり整えたりすることに予算をつけていただけたらありがたい。

#### < J 委員 >

・子育て家庭の気持ちもよくわかるし、企業の立場もよく分かる。今後従業員今 30 人以上の企業にも一般事業主行動計画を策定してもらうことにあるが、計画通りに実行できない企業もあるので、小規模企業に何らかの形で低利融資などの経済的支援ができないかと思う。

#### < K 委員 >

・都会では子どもの声が迷惑な騒音だと言われているが、計画で、笑顔あふれるそして子どもの元気な声をする、そういう子育てをとと言われて、なんていい県なんだろう、大変きめ細かい、手厚い計画が考えられて本当にいいなと思う。

・絵に描いた餅にならないように、また県の方で支援していただきたい。

・周りを見ると本当に結婚をしていない方がだんだん増えてきているので、大変心配。

まず高校生くらいからライフプランを描きながら、やっぱり良いモデルを見て、

いずれ家庭を持って、そして寂しくない人生を送りたいというようなロールモデルを私達大人がしていかなければいけないと思う。

< L 委員 >

- ・子育て支援施策について、あまりお金のことばかり言わないほうがよい。何でも県が支給するという子育てはよくないのでは。
- ・社会全体で子育て支援に取り組むことは分かっているが、各団体は具体的に何に取り組めはいいかわかりやすく教えて欲しい。
- ・一般事業主行動計画について、30人以下の企業もたくさんあるので、今後そういうところにも目くばりをしていただければと思う。
- ・3子以上というが、まったくいないところから1人に増やすこともとても大事。